第１回北区観光振興プラン策定検討会　議事概要（案）

日　時	平成 26 年 8 月 20 日（水）18:30～20:30
場　所	北とぴあ 9 階 901
出席者	検討会委員：14 名（1 名欠席）、（事務局）7 名、傍聴：1 名

開会あいさつ

委員長あいさつ

会議の様子

議事次第

1. 開会
2. 委嘱状交付、委員紹介（資料 1）
3. 検討会の趣旨説明（資料 2、3）
4. 委員長、副委員長選出
5. 検討会の運営について（資料 4、5）
6. 議題
   (1) 北区観光の現状と特徴について（資料 6）
   (2) 北区観光の方向性、テーマについて（自由討論）
7. その他

配布資料

議事次第、配席図
資　料 1：観光振興プラン策定検討会委員名簿、観光振興プラン策定検討ワークショップ委員名簿
資　料 2：観光振興プラン策定検討会設置要綱
資　料 3：観光振興プラン策定の趣旨
資　料 4：観光振興プラン策定体制・スケジュール
資　料 5：観光振興プラン策定検討会の公開に関する内規
資　料 6：北区観光の現状と特徴
参考資料：北区観光ガイドマップ各種

主な議論内容

- 北区観光振興プランの目標年次として、2020 年の東京オリンピックを見据えながら、5 年先の具体施策を検討していくことで了承を得た。
- 北区観光のコンセプトとして、「掛け算の観光」と「つなぐ観光」という意見が出て、2 つのコンセプトで進めていくことで了承を得た。
- 観光振興プランのあり方として、平板的なものでなく、重点プロジェクトのようなものを設定し、官民連携で進めていくことで了承を得た。
- 観光協会については、観光振興プランに位置づけ、別途検討を進めていくことで了承を得た。

1. **開会**

・ お忙しい方々にお集まりいただき、大変恐縮である。一昔前は、観光は地方都市の行政課題であったが、現在は都市部でも観光に取り組んでいるところが多い。2020 年の東京オリンピックに向けて、観光が東京でも大きなテーマになっていくのは間違いないと思う。特別区で観光振興ビジョンなどを策定していない区は、北区を含めて 5 区だけである。北区の場合は、遅ればせながらということになるが、自慢できる観光振興プランを策定したいと考えている。ただ、きれいな印刷物ができれば良いというわけではなく、区役所の丸抱えでない、地域を交えて観光に取り組んでいくことが理想だと考える。また、北区観光協会をスムーズに設立するためにも、観光協会が取り組むことになる具体的なシンボル的なプロジェクトについてもアイデアをいただければと思う。時間にも回数にも限りがあるので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. **委嘱状交付、委員紹介**

・ 委員の自己紹介

3. **検討会の趣旨説明**

・ 事務局より、資料 3「北区観光振興プラン策定の趣旨」の説明
・ 事務局より、資料 2「策定検討会設置要綱」の説明

4. **委員長、副委員長の選出**

・ 委員長について、越野委員より、大下委員を推薦
  ➢ （拍手により一同承認）
・ 僭越ではあるが、議事進行を務めさせていただく。私の専門は観光であるが、観光というのは幅広く、旅行業などの観光産業と最近話題となっている観光まちづくりがあり、私の専門は観光まちづくりの方である。これまでに、都内では、大田区、品川区、墨田区の観光振興プランなどに関わっている。これらの経験から、きれいな観光プランだけでなく、動きのあるプランをみなさま方のお力をいただきながら、とりまとめていきたいと思う。
・ 副委員長について、大下委員長より、浅川委員を推薦
  ➢ （拍手により一同承認）
・ 先ほどご挨拶申し上げているので、直ちに議事に入らせていただきたい。

5. **検討会の運営について**

・ 事務局より、資料 4「観光振興プラン策定体制・スケジュール」について説明
・ 検討会は、検討スケジュールに従って、運営していくことで良いか。
  ➢ （一同了承）
・ 事務局より、資料 5「公開に関する内規」および発言要旨について説明
・ 公開についてご意見がなければ、公開ということでよいか。資料については、傍聴時には閲覧し、会議終了後に返却ということでよいか。
  ➢ （一同了承）

・ 本日は傍聴の希望はあるか。
  ➢ 本日はない。現在はホームページで周知しており、次回以降は、北区の広報でも周知させていただく。（事務局）

※ただし、この後、会議の途中で１名傍聴者が加わった。

6. 議題

（1）北区観光の現状と特徴について

・ 事務局より、資料６「北区観光の現状と特徴」について説明

（2）北区観光の方向性、テーマについて

・ 花火会の開催を始めて今年で 3 年目になる。お客さんは区内の方々も多いが、他エリアの方にも紹介するなど意識的にプロモーションをしている。都内でも有数の花火会になる可能性のあるエリアだと言ってくれる人もいる。北区は、私たちが思っている以上にポテンシャルのあるところだと思うので、そういう可能性も追求していければと思う。それから、個別のコンテンツの議論も有意義だとは思うが、観光の位置づけやフレームワークについても、きっちり共通認識をもって行っていくことが大事だと思う。
  ➢ フレームワークという言葉をおっしゃられたが、全体として、観光をどう位置づけていくかが大事だと思う。2 月の北区での観光のシンポジウムでは、「暮らすように旅する、暮らしを旅する」というご意見があった。
・ 全体のフレームワークをどうするか、ということに踏み込むのは大賛成である。スケジュールを見ると、唐突に平成 27 年度以降に観光協会設立の話が出てくるが、観光そのものの位置付けができると、観光協会の役割なども明らかになってくると思うので、ぜひ観光振興プランの目標像や基本方針のなかに観光協会に関することを組み入れていただきたい。資料 6 に観光資源をカテゴリ別に並べていただいているが、ひとつずつを深堀りするとともに、複数の資源やテーマを組み合わせていくことが大事だと思う。1×1×1 は 1 にしかならないが、3×3×3 は 27 になる。資源やテーマの「深堀り」と「かけ合わせ」が大事だと思う。
  ➢ 観光協会については、手続きや研究は別で行っていかなければならないと思うが、大きなフレームのなかで役割分担を検討していく必要がある。また、テーマについて「深堀り」と「かけ合わせ」というのは、テーマのつくりかたの大きなヒントになると思うので、今後これを深めていければと思う。
・ 観光によってどれだけの経済効果が生まれるのかということについて、どこにも数字が出ていないと思う。何をもって成功とするのか、経済効果を金額として算出することができるのか。また、誰を対象とした観光にするのかも非常に重要である。以前にドイツ人の人を案内したとときは、近所の幼稚園やうなぎ屋などを案内したが、非常に喜んでもらった。そういう意味では、日常生活を見せるような観光が良いと思う。また、商工会議所の『北区時間』という雑誌があるが、北区のことがとてもよく分かると他の自治体の人から褒められたことがある。行政以外にも、商工会議所や法人会など各団体で取り組んでいることをつないでも観光になるのではないかと思う。

- ➢ プランに盛り込まなければならないのがターゲット論である。北区民を対象とするのか、もう少し広げるのか。今、観光が大きく変わってきており、都市観光としてこれまで掘り起こされてこなかった都内の資源が見直され始めた。だから、ターゲットをどの段階でどう広げていくのかということも検討していく必要がある。

・ 商店街の立場から言うと、商店街では食べ物などの各分野で各々売り出しているが、区の観光としては、全て発信するのではなく、観光資源に優先順位をつけていく方が良いと思う。また、資料 6 の JR 駅のスタンプについて質問だが、十条駅の商店街のモチーフは、どういう考え方で採用されたのか。

- ➢ このスタンプは JR がつくったものなので、JR から見れば、十条駅は商店街が売り物だと思ったのだと思う。他にも、郵便局もスタンプをつくっており、地域の特徴をつかむのに役立つと思う。

・ それから、観光には交通も必要だと思うが、現在の交通網のままでいくのか、それとも新たに資源をつなぐバスなどの交通網ができるのか、期待している。

- ➢ プランのなかに資源のつなぎ方の話も入ると思うが、方法として、物語としてつなぐ方法と物理的につなぐ方法があると思う。今後、議論をしていきたいと思う。

・ るるぶという観光雑誌があるが、最近は東京都のるるぶもある。北区のるるぶはないので、それに代わるものを我々で作ってはどうかと思う。北区は歴史も古く、飛鳥山公園や時代劇の舞台などの良い資源も多いため、もう一度、地域資源を見直した方が良いと思っている。それから、食として、商工会議所ではおでんを売り出しているが、個人的には王子の狐に関係して、きつねうどんやお稲荷さんを北区の名物にしてはどうかと思っている。ある資源を活用するだけでなく、新しく資源をつくっても良いと思う。

- ➢ 先ほどの『北区時間』はるるぶに匹敵する、または、それ以上のものだと思う。食の話は今後も出ると思うので、いろいろと展開していければと思う。

・ 北区には様々な資源があるが、それらをつなぐ移動手段がない。高齢化が進んでいるので、年配の方をターゲットにして、コミュニティバスの停留所を観光地につくり、生活面と観光面を一緒に取り込んだような路線バスをつくると良いのではないか。まず、北区の人の行動範囲が広がれば、口コミなどで他区の人に広がっていくと思う。北区の人にもう少し北区を発見してほしい。

・ 観光資源についての整理は、過去に産業振興課、広報課、教育委員会などでもされており、それらが同じ方向を向いていない。これまでも出てきている話をどうつないでいくのか。例えば、飛鳥山の桜について、毎日の情報をホームページにアップするようにすると、タイミングを見計って多くの人が来るようになった。また、ターゲットについては、北区の身近なところからはじめて、2020 年の東京オリンピックのことも考えて、海外の方々のことも考えていっても良いと思う。

- ➢ 2020 年というキーワードが出てきた。計画をつくる以上、目標年次を決める必要がある。様々な行政計画と整合をとりながら進める必要があるが、今の時代は 5 年先の計画が限界である。だから、2020 年をイメージして 10 年先をにらみながら、5 年先までの具体的なプランを考えていくことを一度仮置きすることでどうか。
- ➢ （一同了承）

- 最終的なゴールとして、期間とターゲットをしっかり定量的に明示する必要があると思う。PDCA を図りやすくするためにも、数値目標を設定してはどうかと思う。また、どう世の中に広めていくかということも重要だと思う。ケーブルテレビでは、北区の CM コンテストを実施して今年で 3 年目だが、今年も 50 以上の応募があった。一般の方に聞くと、まだまだ北区についての情報がいろいろ出ると思う。
  - 定量的な目標も必要ということで、これはもっともな話なのだが、大変難しい話である。なぜなら、観光統計ほど数値が不明確なものはなく、離島と温泉についての観光統計の数値以外は信頼性が低いからである。住民意識など定性的なものを量的に表したりすることもひとつの方法であると思うので、今後、議論を深めていきたい。
- 観光は、物事や地域を知ることで、地域の人たちが自分たちの生活を豊かにするものだと考える。自分の生業や生活をみていただくことは、地域を知らなければできないことなので、住んでいる人がまず地域を知ることが重要だと思う。そのために、北区の高齢者の方が力になるのではないかと思う。また、北区の案内板には英語表記がないが、北区で観光をうたう場合、外国人を対象とするのかどうかを考える必要がある。また、地域のなかで面白い場所が、カフェである。30 代くらいの若い人が、個展や勉強会を開催して情報発信をしているが、そういう若い人たちをどう巻きこんでいくのかを考える必要がある。
- 地域の人や私自身も地元の場所で、まだまだ知らないこと、足を運んでいない場所がたくさんある。女性は観光となると、雑誌に載っている場所は必ず見て周りたい、美味しいものを食べたい、体験ものがあれば何か作りたい、お土産を買って帰りたいなど、全部満足して帰りたい。だから、ターゲットによってプランのイメージが違ってくると思う。また、今は、スマートフォンがあり、情報が溢れ過ぎているので、それらを結び付けてとりまとめていくのが一番難しいと思う。
  - 誰をターゲットにどのような情報発信をしていけば効果があるかということは、検証されておらず難しいことではあるが、目標像を意識しながら行っていくことが大切であると思う。
- 北区の現在の観光スポットに付加価値をつけて魅力あるものにしていかなければ、現状のままでは多くの来訪者は望めないと思う。ターゲットが絞られれば、そこに向けて大きな PR ができると思う。また、高齢化のなかで観光をどう位置づけていくかということも重要である。時代が変わると観光するものも変わって来ると思うが、見て、食べて、触って、学べてというように、それぞれの資源に付加価値をつけていくのが良いと思う。
- 北区の観光ボランティアガイドをやっているが、現在のお客さんでは、健脚な 60 代から 70 代のお年寄りが圧倒的に多く、年間 40～50 回ガイドをする。お客さんによってニーズも異なり、十分な情報提供ができているか、ということを日頃感じている。また、この 6 月に都庁 1 階の観光コーナーで北区の広報を行った。そのときに、一番売れた情報は鉄道マップであり、「北区ってどこ？」というテーマが人気だった。東京には、東区も西区も南区もなく、どうして北区だけあるのか、という質問をされたこともあり、そのことが北区の売り物になると言われたこともある。また、今後、ガイドとしては、北区の小学校 3 年生を対象としてガイドをしようと思っている。歴史の話ではなく、地域の行事の話を中心にしようと思っている。

（3）総括

・ 今日の議論では、ターゲット、作戦、数値目標の話が出てきたが、まず、ゴールがどこなのかということを共通認識をもって検討していければと思う。観光振興として、商店街を活性化するのか、来街者を増やすのか、人口を増やすのか、などというゴールの部分をまず共有し、早い段階で足並みを揃えて議論していきたい。また、北区では、広報課でシティプロモーションの取り組み、都市計画課で景観の計画の改訂を行っており、今後、必要に応じて情報をお伝えしていく。また、2020 年は、団塊の世代の平均年齢が 72 歳の健康寿命になる年で、それ以降、問題が出てくる時期を迎えるはずであるので、こういう時代における観光ということについても、今後、一緒に考えていきたい。

・ 今日の議論の結果として、まず、この検討会は、フレームワーク、方向性を出す会であることを共通認識としたい。また、将来の姿として、5 年、10 年先を見据えることを、決定としたい。フレームのなかでは、北区における観光の位置づけを決めなければならないが、今日の議論を整理したうえで、次回検討していきたい。さらに、ターゲットについて、今日の議論では、まずは区民を対象にするという意見であったが、鉄道のように、いきなり区外の人を対象にする可能性のものもあると思う。観光振興の進め方については、官民一体で進めていくという意見だったが、観光協会については、他地域の観光協会へのヒアリングや観光協会に関わる様々な状況などを踏まえ、適宜議論していければと思う。また、手法論として勉強になったのが、「深堀り」と「かけ合わせ」である。北区観光のひとつのコンセプトとして、「掛け算の観光」として打ち出しても良いと思う。資源、テーマなどを掛け算で売り出す方法もあるし、ターゲットに関しても掛け算の考え方ができると思う。また、資源をどうつなぐかという話もあったが、もうひとつのキーワードとして「つなぐ観光」を打ち出しても良い。時間、空間、資源、人をつなぐ方法として、交通などで物理的につなぐ方法と物語でつなぐ方法があると思う。今日の議論は、以上 2 つのコンセプトに収れんできると思うので、「掛け算の観光」、「つなぐ観光」の 2 つを仮置きさせていただければと思う。また、観光振興プランは、様々な要素に触れつつも、平板的な総合計画ではだめであり、そのためには、重点プロジェクト、もしくは、リーディングプロジェクトのようなものが必要だという意見もあった。次回の検討会までに、ワークショップを 3 回開催する予定であるが、次回は、そこでのアイデアをもとに、「フレーム論」、「掛け算の観光」、「つなぐ観光」という大きな方向性でとりまとめた案を提案し、テーマをしぼって効率的に議論できるようにしたい。

7. その他

・ ワークショップについてお願いであるが、地域資源の議論で提供する資料には、行政区画にしばられないものをご用意いただきたい。

  ➢ 了解した。ワークショップでは、行政区画にしばられず、人の動きを考えて、議論を行っていきたい。

・ 事務局より、次回第 2 回検討会の案内、閉会

以上